

## 第 98 回 ITER 機構職員募集説明会での Q&A

### 1. 日時・場所

平成 29 年 9 月 4 日（月）～6 日（水）

埼玉大学 大久保キャンパス（日本機械学会 2017 年度年次大会 企業展示会場）

### 2. 来訪者 50 名程度

### 3. 説明概要

日本機械学会 2017 年度年次大会において、ITER に関するポスターを展示し、ITER の概要、ITER の最新の建設状況、国内機関としての活動、ITER 機構職員数の現状、ITER 機構職員公募に関して説明を行った。

（ITER プロジェクト部 杉本 ITER 連携推進グループ 會澤、古田）

### 4. 主な Q&A

Q：ITER はどこに建設されているのですか？

A：フランスの南部サン・ポール・レ・デュランスに建設しています。マルセイユから約 100 キロ、車で 2 時間程度のところです。

Q：ITER はいつ完成するのですか？

A：現在、トカマク複合建屋や本体組立建屋の建設が進められており、最初のプラズマは 2025 年に点火される予定です。（2016 年 6 月 ITER 理事会で決定）

Q：那珂核融合研究所の JT-60SA と ITER との関係性はこういったものですか？

A：JT-60SA 計画は、国際熱核融合実験炉 (ITER) 計画と並行して日本と欧州が共同で実施するプロジェクトです。JT-60SA の目的は、ITER 技術目標達成のための支援研究、原型炉に向けた ITER 補完研究、ITER 計画をはじめ核融合研究開発を主導できる研究者・技術者の育成、という 3 つです。これらは ITER の目標達成へと活かされます。

Q：那珂核融合研究所ではどんなことを行っているのですか？

A：那珂核融合研究所では、主に「ITER の研究開発」と「核融合プラズマの研究開発 (JT-60SA)」を実施しています。ITER 研究開発では、ITER 計画における日本の国内機関として、ITER 機器の研究開発・調達や人的貢献の窓口として役割を果たしています。また、プラズマの研究開発では、試験装置 JT-60 を用いた研究を実施し（2012 年に解体完了）、現在は超伝導化した JT-60SA の組立（2020 年運転開始予定）を進めています。

Q：核融合炉が現在の原子力発電と比べて安全性が高いというのはこういったところですか？

A：核融合炉は重水素とトリチウムを用いた反応からエネルギーを取り出し、発電を行おうというものです。原子力発電ではウランの原子核が中性子を吸収し軽い原子核に分裂 (核分裂) する際に出るエネルギーを取り出し、発電を行います。この核分裂反応は連鎖反応を起こすのに対し、核融合反応は燃料の供給を止めれば反応も止まるため、比較的安全対策をし易いといえます。また、核融合反応では高レベルの放射性廃棄物は発生しません。

Q：ITER 機構に採用が決まった場合、どのくらいの期間働けますか？

A：ITER 機構と直接雇用を結ぶ場合、契約期間は最大5年です。契約期間満了後、評価や実績により、更新される方もいます。また、最初の契約を終えた時点で、異なるグレード・等級のポストに応募することもできます。

## 5. 展示会の様子

